

(様式3)

農業研究成果情報

No. 802 (平成29年5月) 分類コード 04-10 熊本県農林水産部

### クリ「ぼろたん」におけるネスジキノカワガの虫糞を指標とした防除適期

クリ「ぼろたん」では、6月上旬から中旬にかけて樹上の毬果を確認し、ネスジキノカワガによる虫糞が確認された直後（球磨地域では6月中旬）に薬剤散布をすることにより被害を軽減できる。

農業研究センター球磨農業研究所（担当者：重本 万穂）

#### 研究のねらい

クリ毬果を加害するネスジキノカワガの被害は、中晩生品種よりも早生品種で多いことが明らかとなっており（成果情報No.759）、早生品種「ぼろたん」の生産阻害要因の1つとなっている。そこで、「ぼろたん」におけるネスジキノカワガの防除適期を明らかにし、虫害発生軽減のための防除技術を開発する。

#### 研究の成果

1. クリ「ぼろたん」では、樹上にネスジキノカワガの虫糞が発生した毬（以下虫糞発生毬：写真1）が、6月上・中旬から確認され始め、6月下旬に最も多くなる（図1）
2. 6月上旬（樹上の毬果で虫糞が確認される前）、6月中旬（虫糞が確認された直後）、6月下旬（虫糞が多く確認される時期）の薬剤散布の中では、虫糞発生毬が確認され始めた直後の6月中旬の薬剤散布が被害を最も軽減できる（図2、図3）。

#### 普及上の留意点

1. 球磨農業研究所（球磨郡あさぎり町）において、カルタップ水溶剤（パダンSG水溶剤）1,500倍を散布して得られた成果である。
2. ネスジキノカワガ虫糞は、毬径が15mm程度の小さい時期から発生するため、発生時期を見落とさないように注意する。
3. 「ぼろたん」ではモモノゴマダラノメイガによる被害も多く、ネスジキノカワガとは防除適期が異なる8月上旬の防除が必要である（成果情報No.664）。なお、それぞれ適用薬剤が異なるため、注意する。

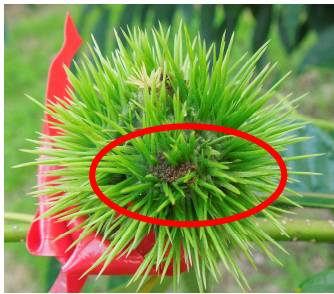


写真1 虫糞発生初期の毬

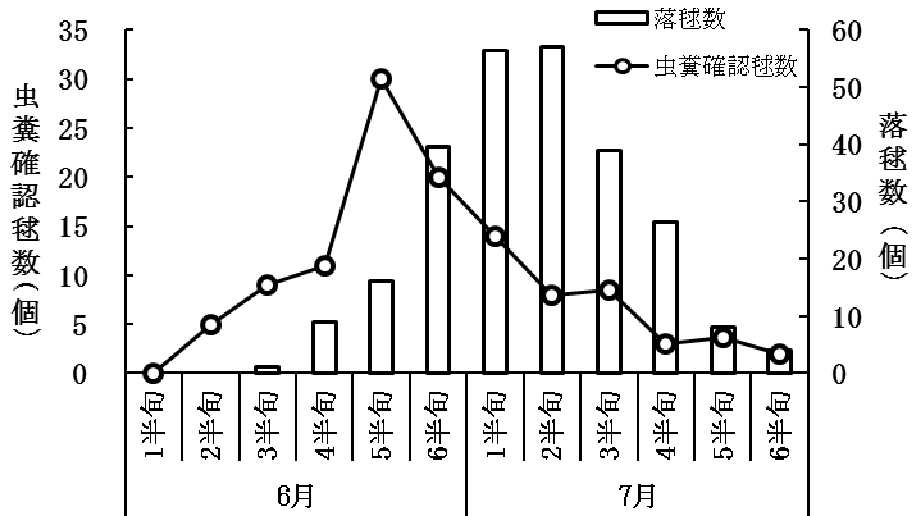


図1 樹上の毬における虫糞発生毬数と虫害落毬数の推移

注1) 調査地点：球磨農業研究所内

注2) 数値は2014年～2016年の「ぼろたん」3樹を調査した平均値

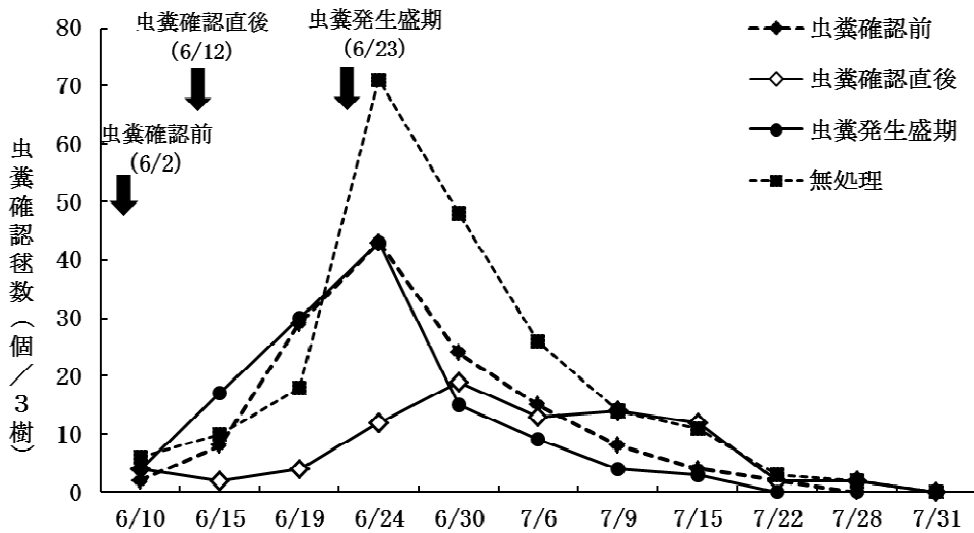


図2 「ぼろたん」における薬剤散布時期別のネスジキノカワガの虫糞発生毬数の推移(2015)

注1) 図中の黒矢印は防除を行った時期を示す

注2) 調査樹：「ぼろたん」7年生

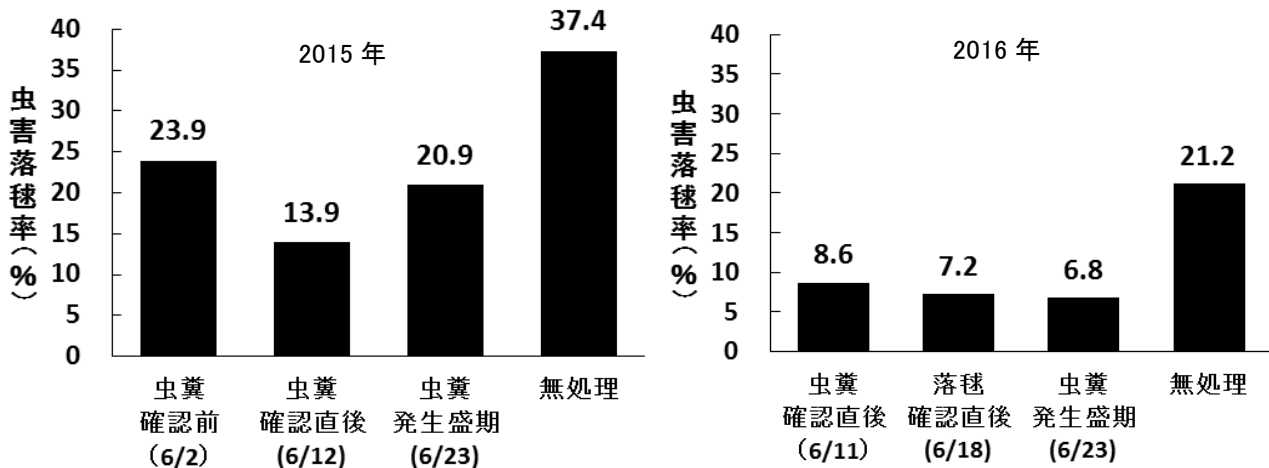


図3 「ぼろたん」における薬剤散布時期別の虫害落毬率

注) 「虫害落毬率」は8月上旬時点の総毬数に対する虫害落毬数の割合